

ほほえみ

今、一冊の本がベストセラーになっています。

「チーズはどこへ消えた？」

物語はある迷路で起きた出来事をめぐるもので登場人物は二匹のネズミと二人の小人。二人と二匹は迷路の中で大きなチーズを見つけやがてそのチーズを食べて暮らす生活に慣れていきます。しかしある日そのチーズが突然消えてしまうのです。その時にどう対応するのか。人間とネズミは四者四様の動きをします。

このチーズは私たちが人生で求めるもの、仕事や家族、お金などを示し、迷路は会社や地域社会、家庭を象徴していると言います。

確かに突然子どもの健康が崩れ、難病を言い渡された我々の境遇にも当てはまるものがあります。そうした状況になったとき自分はどう行動するのか、またどうしなければいけないのか。教えてくれているようです。

わずか30分足らずで読めてしまう小さな本でシンプルな物語ですが、状況の急激な変化にいかに対応すべきか深い内容が込められています。一読をおすすめします。

<第71回 ほほえみの会>

天野先生をはじめ10人が集まりました。

6年生の男の子、横紋筋肉腫で入院1年。末梢血幹細胞移植をやり順調にいけば後2ヶ月くらいで退院を迎える。

退院後病院を離れると思うと心配。民間療法をやった方がいいのだろうか。

病気をすると健康食品と宗教の勧誘が多いと参加者から意見がでました。

- ・アガリクスやプロポリスなど使っている人のことは良く聞くが効果は人によって違うだろう。飲ませていれば親が安心する。効果よりも親の納得のために飲ませるのでは。親とすれば良いものがあるといえやりたい。
- ・プルーンを飲ませたところ尿検査で異常値が出た。止めたら元に戻ったので以後飲ませていない。
- ・民間薬の中には食事がとれなくなってしまうものもあるので注意が必要。先生も何を飲んでいるのか知っていた方が良いので伝えた方が良い。
- ・退院後は再発の恐怖がつきまとい食べるものには非常に気を遣った。
- ・悪くなったらどうしようと思い悩むよりこのまま元気になると思い込んだ方が良い。悪くなったらその時に考えれば良いと思った。

6月は総会です

総会では・・・

もと患者で病気を克服し元気に生活している方が闘病体験記をお話してくれそうです。

また、元気になった患者さん達の会を作りたいというフェロートウモローの会の静岡版の動きもあるようです。

最近の医療では移植をする人が非常に増えているようです。

臍帯血のドナーも増えHLAの合致も増えているそうです。

移植は無菌室を使わず個室でできるようです。

それに合わせ建設を予定している新病棟は個室を増やすということです。新病棟は来年秋の予定が少し遅れるようです。

そんな医療の最新情報とこども病院の今後の対応等についてのお話も伺う予定です。

小さな子どもの面倒もボランティアの学生さんが見てくれます。

どうぞご参加下さい

次回は 6月10日(日) 時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一